

令和3年12月7日  
第109回多可町議会定例会

# 町長所信表明

町政基調:「住みたい町・住み続けたい町」

～ 4つのチャレンジ ～

1. 子育てするならダントツ多可町
2. より一層の行政サービスの向上
3. 地域産業の育成と積極的企業誘致
4. 生涯学び続けられる生きがいあふれるまちづくり

多可町長 吉田 一四

## はじめに

本日、第109回多可町議会定例会の開会にあたりまして、町政に対する私の所信の一端を申し述べ、議員の皆さんをはじめ住民の皆さんのご理解とご協力を賜りたく存じます。

この度の町長選挙におきましては、無投票という結果でありましたが、再選を果たし、引き続き町政を担わせて頂くこととなりました。

コロナ禍の影響により、選挙戦の中で、これからのまちづくりへの思いを充分にお伝えする機会が持てませんでした。これまでの4年間の町政運営を評価され2期目を託して頂いたものと光栄に存じますとともに、心から感謝申し上げます。

今、改めてその責任の重さを痛感しているところであり、初心に返り、全身全霊で町政運営に取り組んでまいり所存であります。

まずは、今後4年間の町政について、住民の皆さんに丁寧にお伝えすることから2期目をスタートしていきたいと考えております。

さて、これまでの4年間は、「変革」、そして「未来への約束」を私の覚悟とし、多可町の2代目町長として、先代時代に築かれた礎を完成させるとともに、「住み続けたい町、住んで良かったといわれる町づくり」に奔走してまいりました。

また、これまでに行ってきた大型投資的事業に係る借金の返済ピークが過ぎたことと併せて、特に、指定管理施設の各運営体や施設の在り方について見直しを行い、着実に財政状況を改善してまいりました。

今後は、少子高齢・人口減少対策に力を入れていくことに加え、今般の新型コロナウイルス感染症対策において、住民の皆さんの生命、健康、安全を守りつつ、地域経済の速やかな回復に向けて取り組むと共に、アフターコロナ時代を見据えたまちづくりを行っていく必要があります。

このような状況において、2期目の町政基調として、「住みたい町・住み続けたい町」に向け、4つのチャレンジについて順次申し述べさせていただきます。

## **第1に、「子育てするならダントツ多可町」の実現**

これまでの4年間、子育て世代に選ばれるまちを目指し、多様な子育てスタイルに対応できるよう、様々な事業を展開してきました。

保育料の軽減をはじめ、所得にかかわらず高校生までの福祉医療の無償化、更には、ご家庭で乳幼児を養育する保護者に、多可町独自で在宅等育児手当制度を設けるなど、一つひとつの事業は、子育て先進自治体とそう見劣りするものでは決してありません。

よって、2期目は、多可町が取り組んでいるきめ細やかな制度や事業が、実際の運用の中で利用者にとって最善なのかを点検しながら、質の向上に向けて取り組んでいくとともに、必要なお家庭にベストなタイミングで活用頂けるよう、情報発信にも力を入れていきたいと思っています。

また、子育て世代に切れ目のない支援を引き続き行うとともに、社会が複雑多様化している現代、顕在化しづらくなっているいじめ問題などに対し、弁護士などの専門家と相談体制を強固にし、スピーディーに対応していくことで、早期問題解決を図ってまいります。このように、子どもの命が守られ、安心して育つことが出来る体制を整備するとともに、子どもの主体性を尊重した取り組みも進めていきます。

今後ますます大きな変化が予測される中、次代を担う子どもたちが社会の中で適応し、力強く生きていけるよう、確かな学力を育む教育の充実をより一層進め、AI時代においても必要とされる人材育成を目指していきます。

## **第2に、より一層の行政サービスの向上**

今年9月にデジタル庁が誕生し、更に、先月発足した第2次岸田内閣では、地方にデジタル技術を普及させ、都市部との格差や距離を縮めて活性化を目指す「デジタル田園都市国家構想」を看板施策に掲げ、地方のデジタル実装に向けた政策を総動員するとしています。

多可町におきましても、既に、行政手続きのオンライン化で「待たせない」「書かせない」役場の窓口を目指し、住民の皆さんの利便性向上に向けて取り組んでおります。

併せて、職員の業務効率化、働き方改革も進めていきます。

また、新ごみ処理施設については、引き続き西脇市との連携のもと、周辺環境の整備も併せて取り組んでまいります。

更に、地域のあらゆる主体が連携して、誰一人取り残すことなく多様性と包摂性のある社会を実現する SDGs の理念を各施策にしっかりと取り入れ、経済・社会・環境の三側面において新しい価値を創出し、持続可能な発展を実現する「未来都市」を目指します。

### **第3に、地域産業の育成と積極的企業誘致**

地域産業として、農業と林業は、従来から後継者不足という中長期的な問題を抱えておりますが、コロナ禍の現在、更なる問題が顕在化しています。

農業では、国レベルで見ると、時短営業や休業を強いられた飲食店で米の需要が減り、在庫が積み上がっていることが大きな問題となっています。政府は、15万トンの特別枠を設ける考えを表明していますが、酒米「山田錦」に対する個別の支援などは、今のところ見受けられません。私も、米作りに携わっておりますが、米の収穫は一朝一夕には成しえませんが、土づくりにはじまり、農家が1年を通じて手間暇かけるからこそ収穫できるものです。

しかも、多可町は山田錦発祥のまちとして、長い歴史の中で、代々、生産技術を継承してきた土地です。農家さんの頑張りや苦勞が報われるよう、この困難を乗り越えていかなければなりません。引き続き県や国の動向を注視しながら、支援・応援について検討していきたいと考えています。

同様に、林業においても、今年の春頃から、米国での住宅需要の高まりや中国での景気回復に伴い世界的な木材価格の高騰や、海上輸送のコンテナ不足による運賃上昇などにより、輸入木材の価格上昇と品不足が生じています。

これを機に、輸入木材から国産木材への需要シフトが起きていますが、既に、山村は過疎化・高齢化などで林業自体が疲弊しており、国産木材の供給が追いついていない状況です。

林業の持続性を高めるためにも、また、多可町の豊かな森林を活用したクアオ

ルト事業、いわゆる健康ウォーキング事業を推進していくためにも、このピンチをチャンスに変えるべく展開を図ってまいります。幸い、森林環境において、ハード的な整備と、ソフト的な教育や体験の両面に、森林環境譲与税の活用が可能です。今後、交付額が増えることが期待できる中、積極的な投資でもって地域活性化に繋げていきます。

また、自然災害が少なく、かつ、神戸や大阪から90分もあれば行き来でき比較的交通の便に恵まれている多可町は、都市部と比較して、まとまった土地を安価で利活用でき、企業誘致には適した場所でもあります。加えて、税制面による軽減制度も完備しています。更に、新型コロナウイルスの感染症により海外生産のリスクが顕在化し、日本の企業は海外の製造工程について国内回帰を検討し始めています。

よって、企業誘致については、あらゆる機会を捉え、企業関係者の意向を汲み、職員のマンパワーを存分に発揮して取り組んでまいります。

#### **第4に、生涯学び続けられる生きがいあふれるまちづくり**

人生100年時代、子どもから高齢者まで、すべての人に活躍の場があり、すべての人が自分らしく活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくる必要があります。

特に、誰ひとり取り残されることなく、生きがいを感じることができる社会を目指すことが重要であり、このことは、今回の新型コロナウイルスに関する対応を通じて、改めて実感しているところです。

社会が大きく変化する中であっては、答えは一つでなく、解決が容易でない課題に取り組んでいく上での「学び」の捉え方も多義的になっております。

今後、より多様で複雑化する様々な課題と向き合いながら、一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる社会づくりを進めるためにも、主体的に生涯にわたって学び続けることが一層重要であると考えます。

よって、アフターコロナの社会を見据え、住民の皆さん一人ひとりが、生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習・交流することができ、一人

ひとりの自己実現を応援する拠点として「生涯学習センター」を整備していきます。

そして、お年寄りがご家庭で引き籠もることなく、お孫さんと一緒に生涯学習センターで過ごすことが出来る、また、働き盛りのお父さんお母さんも一緒に3世代で、それぞれ自分の時間を豊かに過ごすことが出来る・・・そんな拠点にしていきたいと思っています。

## **おわりに**

以上、町政執行に当たっての基本的な視点と主要な方向性について申し上げました。

新型コロナウイルスによる世界的な危機は、これまで当たり前とされてきたものの見方や考え方、社会の価値観に大きな変化をもたらしました。

当分、地域社会を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、先行きが不透明な時代が続くでしょうが、そう遠くない時期に、アフターコロナと言われる時代の大きな転換期を迎えることでしょう。その来る時を見据え、住民の皆さんが、心身ともに健康で何気ない日々の暮らしの中で幸せを感じ、将来に希望が持てるまちづくりを進めていきます。

そのためにも、役場職員は、住民の皆さんのために黒衣に徹し、不断の努力を積み重ねていかなければなりません。そして、様々な課題に的確に対応し、住民の皆さんの安全・安心な暮らしをお支え出来るよう、引き続き、民間の知恵と機動力、そして、住民の皆さんの協力を賜りたいと思います。

さて、先月9日に、読売巨人軍にドラフトで1位指名を受けられた、八千代区大屋出身の翁田大勢君が役場に報告に来てくれました。その時、ある新聞記者が翁田君に「多可町が大好きとのことですが、多可町の自慢は？」と尋ねる場面がありました。この質問に翁田君は次のように答えてくれました。「多可町は自然が豊かで遊ぶところがいっぱいある。美味しいものもたくさんある。そして、人が優しく温かい・・・」。また、これを受け、関西国際大学の鈴木監督は、「翁田選手は、彼が持って生まれた素質もあるが、小さい頃、野山で走り回って大きくなった。

多可町の自然が彼を育てたと思う」と答えられました。

豊かな自然あふれるこの恵まれた多可町の環境を改めて皆さんと享受し、子育て施策をはじめ、観光、教育など様々な分野で最大限に活用していきたいと思えます。そして、何よりも、人が親切で温かいという住民の皆さんが、多可町の最大の源泉であると私は確信しております。

住民の皆さんの多様な価値観を尊重し、一人ひとりがいきいきと成長し活躍できる……。住民の皆さんが活かされることで、まち全体が活性化される。

このように、人材を通じて町全体の活性化につながる施策に積極的に投資してまいりたいと考えています。

そして、多様な主体が、それぞれの強みや能力を尊重し合い、信頼関係で相乗効果を発揮出来てこそ、真に豊かで活力あるふるさと多可町が築き上げられ、輝ける未来を創造できるものと私は確信しております。

幾多の困難に直面することは覚悟の上ではありますが、多可町で生まれ育った人をはじめ、若い世代の皆さんが多可町で暮らし、結婚して子どもを産み育てていただく、そうした住み続けられるまちになるよう果敢に挑戦してまいります。

これからも、議員の皆さん、住民の皆さんと力を合わせ、一つひとつ課題を克服し、町政の更なる進展に全力で取り組んでまいりますので、皆さんの変わらぬご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げ、私の所信表明といたします。